

桶川飛行学校平和祈念館

—令和2年8月4日に開館



▲今も残る分教場の建物（兵舎棟）

市指定文化財である「旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場建物」を活用する形で、桶川飛行学校平和祈念館が開館しました。旧熊谷陸軍飛行学校「桶川分教場建物」は、守衛棟、車庫棟、兵舎棟、便所棟、弾薬庫の5棟からなり、旧陸軍の飛行学校の木造建造物が群として残っている全国でも珍しい例です。兵舎棟では、飛行学校で使われていた教科書など、当時の資料を展示しています。

—旧熊谷陸軍飛行学校桶川分教場
熊谷陸軍飛行学校桶川分教場は昭和10年に開校した熊谷陸軍飛行学校の分教場として昭和12年に開校しました。工期が4か月と短かったことから、建築に際して平面方向は陸軍省が規定する「メートル法」が採用される一方で、垂直方向には当時の大工が使っ

れた「尺貫法」が使われています。

各地から集まった生徒は、ここで寝食をともしながら、陸軍航空兵になるための教育を受け、その後戦地へ向かいました。昭和20年2月には、熊谷陸軍飛行学校の機能が停止され、第52航空師団第6練習飛行隊として改編されます。これに伴い、桶川分教場も閉鎖され、以後は特攻（特別攻撃）隊の訓練施設として使用されることとなります。かつて桶川分教場で教官をしていた伍井氏や、桶川で訓練をしていた第七九振武隊の隊員12名が特攻のため、鹿児島県の知覧飛行場から沖縄に向けて出撃しました。

—復原整備工事

桶川分教場は戦後、市営住宅「若宮寮」として使用されますが、平成19年に最後の住民が転出し、市営住宅としての役割を終えます。その後、NPO法人旧陸軍桶川飛行学校を語り継ぐ会より1万4,000筆の署名とともに建物等の保存を求める要望書が市に提出されます。市はこれを受け、平成22年に土地を国から購入し、保存に向けて動き出します。

平成28年には現存する5棟の建物が市の有形文化財に指定され、平成30年から令和2年にかけて、復原整備工事

が実施されました。工事では若宮寮時代に追加された壁や扉などを取り外し、昭和18年当時の姿に戻す作業が行われました。また、内部を見学できるように、建物の補強や、段差解消の対応をしました。

工事は令和2年3月に完成し、その後、内部の展示作業を行い、令和2年8月4日に開館となりました。

—来館される皆さまへ

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、入館の際に「マスクの着用」「手指の消毒」「体温の測定」「ヘルスチェックシート」の記入へのご協力をお願いしています。また、兵舎棟は「密集」を避けるため、一度に入館できる人数を制限しています。入館をお待ちいただく場合がありますので、予めご了承ください。



【施設情報】

開館時間▶午前9時～午後4時30分
休館日▶月曜日（祝日の場合はその翌日休館）
毎月末日（日曜日の場合は開館）
年末年始（12月27日～1月5日）
入館料▶無料

詳しくは▶桶川飛行学校平和祈念館
☎778—8512